

学校と家庭・地域を結ぶ

# 白布城だより

## 2018 春

栃木県立真岡高等学校定時制課程

栃木県真岡市白布ヶ丘24-1 電話0285-82-3413 fax 0285-82-2913

### 巻頭言

#### 乗組員のひとりとして

教 頭 徳 原 肇

人はしばしば、自分が所属する集団の価値やルールを身につけ、それに従って行動します。私は「家付き酵母」というものに関心があります。この酵母は、その家に代々受け継がれた味をつくります。家を学校に置き換えてみると、この酵母は校風なり気質なりといえましょう。たしかに、ある学校の卒業生には出身校特有の行動がみられます。校風はどのようにしてつくられるのでしょうか。それは、学校での教えを、一人ひとりが日常で体現しているからに他ならないと思います。

先日、生徒がどのくらい本校の校訓を覚えているかを調査しました。1学期の頃、校訓への理解が高くないと感じて、一度目の調査を9月に行いました。その結果から、まずは校訓を覚えさせようとして、「見える化」と「繰り返し」を行いました。これを受けての1月の二度目の調査では、前回と見違える好結果を得ました。

まずは成功。しかし校訓をよく覚えた現在の状況は、価値やルールを頭の中に単に取り入れたに過ぎないのかもしれない。すなわち、価値等をかみ砕かずに丸ごと飲み込んでいるだけの状態なのかもしれません。本当に大切なのは、価値等を自分でよく噛んでから飲み込み、消化することです。こうすることによって、自分の行動の選択を価値等に照らして行えるようになります。価値等を真に自分のものにする、内在化することが次の課題であると考えています。

子どもたちの社会化を促す役目を担っている親や教師の役割は、子どもたちが将来、社会の効果的なメンバーになるために必要なことができるようになるように支援することと言われます。たとえそれが子どもたちにとっては退屈なことだったとしても、自分でやれるよう支援することと言われます。しかし親や教師に本当に求められるのは、子どもたちが自分の意思で主体的に活動に取り組むよう促すことであり、それによって将来、親や教師がそばについていなくても、子どもたちが自分で判断して行動できるようにすることなのではないかと思っています。

私たちは、いつまでも子どもたちのそばについてやることはできません。ですから、できるうちに、子どもたちの自立を促す支援をする必要があります。子どもたちには、複雑化、多様化するこれからの社会を、学校や家庭、地域で築いてきた力を持って、周りの人とともに、豊かでのびのびと生き抜いてほしい。そのために必要な経験を、保護者の皆様や地域の皆様のご理解とご協力を得て、子どもたちに提供していきたいと考えています。私たちは、子どもたちの成長を支える同じ船に乗った乗組員です。

皆様のご支援を受けて、この1年間で子どもたちは大きく成長しました。真岡高校生らしく、遅くなりました。今年度のご支援に心よりお礼を申し上げますとともに、来年度も引き続きご協力くださいますようお願いを申し上げます。巻頭のご挨拶といたします。

## 3学期の軌跡

### ★日本一の定時制を！一三学期始業式

新しい年を迎えての1月9日火曜日、第三学期の始業式が行われました。本校定時制では、一人の事故者もなく今年度の締め括りの学期を迎えられました。

菊地 透校長は、「真岡高校定時制の諸君は、学業、生活態度、進路内定率はもちろん、出席率でも立派な成果を上げている。今年は、考えたことを実践・行動に移し、名実ともに『日本一の定時制高校』を創っていきましょう。」と話され、「春」の意味や「一年の計は元旦に有り」などの格言についてもお話になりました。

そのような校長訓示の下、私たち定時制に関わるひとり一人は、誇りと自信をもって日々の生活を送らねばならないと、改めて感じた始業式でした。

### ★ぼく、報道カメラマンー国際理解教育

毎年、この時期に開かれる国際理解の講演会。今年度は、現在、下野新聞紙上で毎週火曜日に好評連載中「すごいぜ、昆虫！」を担当しているカメラマンの野澤亘伸氏を講師にお招きしました。

野澤氏は、真岡高等学校の卒業生。先輩です。上智大学を経て、報道カメラマンとしてアフリカのブルキナファソや中央アメリカのグアテマラ、南アメリカのエクアドルなど世界各国で実績を残され、雑誌などの表紙やグラビア写真なども手がけられていますが、幼少の頃から、甲虫（カブトムシやクワガタムシなど）類が好きで、現在でも、報道関係の仕事の傍ら昆虫を追って世界各国に飛び、その自然の姿をカメラに収めています。

1月10日水曜日の講演会では、野澤氏が体験された各国の子ども達の様子や世情、治安などを中心にスライドを使って説明され、そこでの体験をリアルに話してくださいました。

日本は、治安の安定した国ですが、現在でも、生命の危険身近にある国もあり、戦闘状態にある地域などで、ミサイルの着地点や戦車の発砲の現場などで取材した時の心境なども、視聴した生徒の関心を引いていました。私たちが見る報道写真も、そんな命がけで撮られているのかと思うと感慨ひとしおです。

註）野澤氏は、4月から引き続き下野新聞紙上で「スマトラ採集編」を執筆されることになりました。

### ★このままで行くと……。一環境教育

毎年恒例となった、「もおかエコクラブ」の方々による環境教育が、1月17日水曜日に開かれました。

校長は挨拶で、昔、井頭公園でスケートをしたが、今は温かいので不可能であること。二酸化炭素の排出は人間が作る欲望の結果だ。多くの生物は絶滅の危機に晒されているのに、増えているのは人間とゴキブリ、ウイルスだけ。などの身近な話をされて本題に入りました。

講話の中では、温暖な地方の魚が北海道沖で水揚げされている現状。台風が、異常に強い大きな台風となって上陸するようになったこと。サンゴが死に絶えて「死の海」が広がっていること。また、樹齢20年の木が一番CO2を吸収すること。などなど、説明してくださいました。

そんな中で、私たちにできることは何か。この講話は、生徒たちみんなに問いかけてくれました。生徒たちが社会に出て、その中から環境問題に取り組む人材が生まれることを期待します。

### ★準2級合格一英検

今年度2回目の英語検定試験が、1月19日金曜日に行われました。英語の授業や0時限を活用して準備した生徒たちが、各級に分かれて試験に挑みました。その結果、1年次2組の田辺 厚君（真岡東中）が、見事、準2級に合格しました。

何事も、意欲と努力が実を結ぶ……。生徒ひとり一人の自覚と頑張りが、よい結果を導きます。

「自分に火をつけるのは自分」。全生徒が更に充実した「自分」を創造して欲しいと思います。

## ★先輩、おめでとう！—予餞会

生徒会役員が中心となって計画した予餞会。最上級生や三修生との最後のイベントです。

今年度は、ドッジボール大会。学年・クラス対抗で行われました。普段、おとなしい生徒もこの時とばかりに、ソフトなボールを相手めがけて投げていました。

最後に、在校生から卒業する生徒にお菓子のプレゼントがありました。各クラスに戻った後、卒業する生徒たちは、楽しく談話しながら残り少ない「高校生活時間」を楽しんでいたようです。

## ★立派な行動を讃えて！—表彰・表彰伝達式

卒業式前日の2月28日水曜日、全定合同の卒業式予行の後、高校生活を頑張った生徒を讃える表彰・表彰伝達式が、多目的ホールで行われました。

卒業の日を明日に控えた生徒たちですが、思いの外リラックスした表情で式に臨んでいました。表彰は、以下の通りです。

<b>学校長賞</b>	中村けんちろ（真岡中）
<b>学業賞</b>	下川 弘之（益子中）・塚田 優也（三修生・真岡中） 中村けんちろ
<b>特別活動賞</b>	
<b>ホームルーム活動</b>	高田 直也（中村中）・下川 弘之
<b>生徒会活動</b>	原田エイジ（真岡西中）
<b>漢字テスト優良賞</b>	中村けんちろ・中三川凌斗（真岡中）・高田 直也 下川 弘之・小林 拓郎（芳賀中）
<b>精励賞</b>	
<b>4年間皆勤</b>	高田 直也
<b>4年間精勤</b>	下川 弘之・中村けんちろ
<b>善行賞</b>	中村けんちろ
<b>全国高等学校定時制通信制教育振興会長賞</b>	下川 弘之
<b>栃木県高等学校定時制通信制教育振興会長賞</b>	塚田 優也

## ★厳かに、そして堂々と！—第46回卒業式

朝のうち、風雨の強い荒れた天気だった3月1日木曜日。本校講堂において、全日制定時制合同の卒業式が開催されました。

菊地 透校長先生登壇のもと、全日制1年1組の担任先生から順に、卒業生ひとり一人が呼名され、全定207名が卒業の運びとなりました。両 PTA を代表して、全日制の富山英幸会長、同窓会の佐藤 務会長から、蛍雪の功、相成った卒業生に対する祝辞があり、全日制在校生代表からの送辞に続いて全定ごとの代表生による答辞が読まれました。

定時制代表は、4年間、アルバイトに励みながら優秀な学業成績を残した下川弘之君が、辛かったことや悩んだこと、楽しかったことなどを率直に述べ、多くの参列者の感動を呼び起こしました。

式終了後、思い出の教室に入り、最後には保護者の皆さまとともに、「高等学校の空気」を味わって、この学び舎を巣立っていきました。その頃には、早朝の暴風雨が嘘のように晴れ渡った空になり、卒業生を祝福しているかのように感じられました。

## ★生きて！あなた…。—総合的な学習の時間・まとめ

今年度の「総合学習のまとめ」が、3月14日水曜日に多目的ホールで行われました。

今年度は、宮崎 駿監督作品「風立ちぬ」というアニメ映画を鑑賞しました。

新しい飛行機を創り出す苦勞、愛する人の病、さまざまな苦難に翻弄されながら所期の目標を達成する愛と勇気と忍耐。人間は、常に、理想と現実の狭間で苦悩する生き物ですが、みんな苦難を乗り越えて立派な業績を上げていることを、生徒たちも気づいたのではないのでしょうか。

次に、生徒の感想を挙げます。

- ・自分も、主人公のように、自分のしたいことを真剣にやりたいと思った。  
(3年次 野沢 裕也・中村中)
- ・私も、主人公の次郎のような素直な人になりたいと思った。  
(3年次 益子 七海・宇陽北中)
- ・「私の」人生を、大切に生きようと思った。  
(2年次 古川 樹里・宇清原中)
- ・次郎の菜穂子に対する愛の重さがすごく伝わりました。過酷な仕事をしながら家庭と両立させるなんてすごい。飛行機で、こんなにも喜べるなんて素敵だと思いました。  
(2年次 高橋 萌・上三川中)
- ・この映画は、側にいてくれる人をどう支えればいいのか、など大切な事を教えてくれました。  
(1年次 比嘉ゆかり・真岡中)
- ・飛行機よりも、次郎と菜穂子の交流に集中！人のために、あんなことができるのはスゴイと思いました。とても感動しました。  
(1年次 大根田風紗・芳賀中)

### ★春風に乗って、和気あいあいと！一校内体育大会

日中20度を超える暖かな3月15日木曜日。今年度最後の校内体育大会の種目は、フットサルと卓球、バドミントンです。生徒は、チームやシングルスで精一杯競技を楽しんでいました。

また、体育委員をはじめ、率先して準備をする生徒の姿の活躍も目立ち、微笑ましく感じました。ゲームは、戦いの中にも和気あいあいとした雰囲気が漂っていました。

結果は、次の通りです。

フットサル	優 勝	1年次チーム
卓 球	優 勝	佐藤 政則 (1年次1組・真岡西中)
バドミントン	優 勝	上野 滉 (1年次2組・上三川中)

### ★いろいろなことができました…！一修了式

寒さの厳しかった冬の名残が垣間見られる3月23日金曜日今年度の修了式が行われました。

菊地校長は式に当たり、「本校定時制の諸君の地道な活動が、地域の皆さんに徐々に浸透し、県内高校定時制課程で一番多い志願者がありました。在校生の、アルバイト、部活動、進路の成績をはじめ、普段の生活が中学生や一般の方々から評価された証拠だと思います。皆さんはこれからも、その自覚を持って、新しい学年になっても頑張ってください。

また、さまざまな活動において、何時いかなる時に何がおこるか分かりません。よかれと思ってしたことが逆の結果を生むこともあり得ます。皆さんは、どのような場面に遭遇しても『至誠』の校訓の下、堂々と生活が送れるよう心がけて、日々、過ごして欲しいと思います。来年度も、皆さんからの良い知らせを期待しています。」と、述べられました。

生徒たちは、明日から春季休業に入りますが、4月から新しい学年次に進級するわけですから、一回り大きな人間になって新学期を迎えて欲しいと願っています。

### 白布の風～あとがきにかえて～

保護者、定時制後援会、そして、ここ白布ヶ丘にお住まいの皆さま。ここに、平成29年度最後のご報告が無事にできますことを、真岡高校定時制教職員一同、たいへん嬉しく思います。

さまざまな思いを胸に抱いて入学してくる生徒が多い本校定時制ですが、昨春入学した一年次生は、一人も退学する者もなく今日まで至っております。また、卒業年次生も、全員、第一希望の進路試験をしっかりとクリアして、4月から、上級学校に社会人に、と巣立っていきました。これも一重に、皆さまの暖かなご支援のおかげとこの場をお借りして、感謝申し上げます。

目を社会に転ずれば、国内、国際を問わず、激変の時代に直面していると言わざるを得ません。これから先、それぞれの事柄がどのように展開するのか予断を許さない状況ですが、そのような時代を、私たちは生きんぬかねばならないのです。

私たち、本校教職員は、そんな社会に出ても堪えられる精神力を生徒たちに身につけさせようと、学校生活全体で教諭していきたいと考えています。

どうぞ皆さま、来年度も本校定時制の教育に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1年間、ありがとうございました。

記録・広報係